

# 第1回札幌文化芸術未来会議

日 時 令和2年11月20日（金）午後6時から

## 会 議 次 第

1 開 会

2 市民文化局長挨拶

3 委員の自己紹介

4 委員長、副委員長の選出

5 議 事

(1) 札幌文化芸術未来会議の目的等（事務局説明）

資料1

(2) アンケート調査について

6 閉 会

## 令和2-3年度 札幌文化芸術未来会議の目的等

## ○札幌市文化芸術基本条例

(意見交換の仕組みの整備)

第10条 市は、市民、芸術家等、文化芸術活動を行う団体等の自由な発想が文化芸術に関する施策の推進に欠かせないものであることに鑑み、市とこれらの者とが、文化芸術に関する施策の推進に関し、互いに自由かつ率直に意見の交換を行うことができる仕組みの整備を図るものとする。

## 1 委員任期

令和2年11月～令和4年3月末

## 2 今回の目的

- ① 文化芸術関係者が活動を行うにあたり、現在、新型コロナウイルス感染症の影響を受けていることも踏まえ、市の文化芸術に関する短期的、及び中長期的な施策の推進に関して、意見交換を行う。
- ② 幅広い分野の文化芸術関係者と行政とのネットワーク構築の契機とする。

## 3 意見の反映(想定)

- ・ 短期的 → R4年度予算編成に向けた事業構築の参考とする
- ・ 中長期的 → 次期戦略ビジョン、次期中期実施計画、次期文化芸術基本計画検討の参考とする

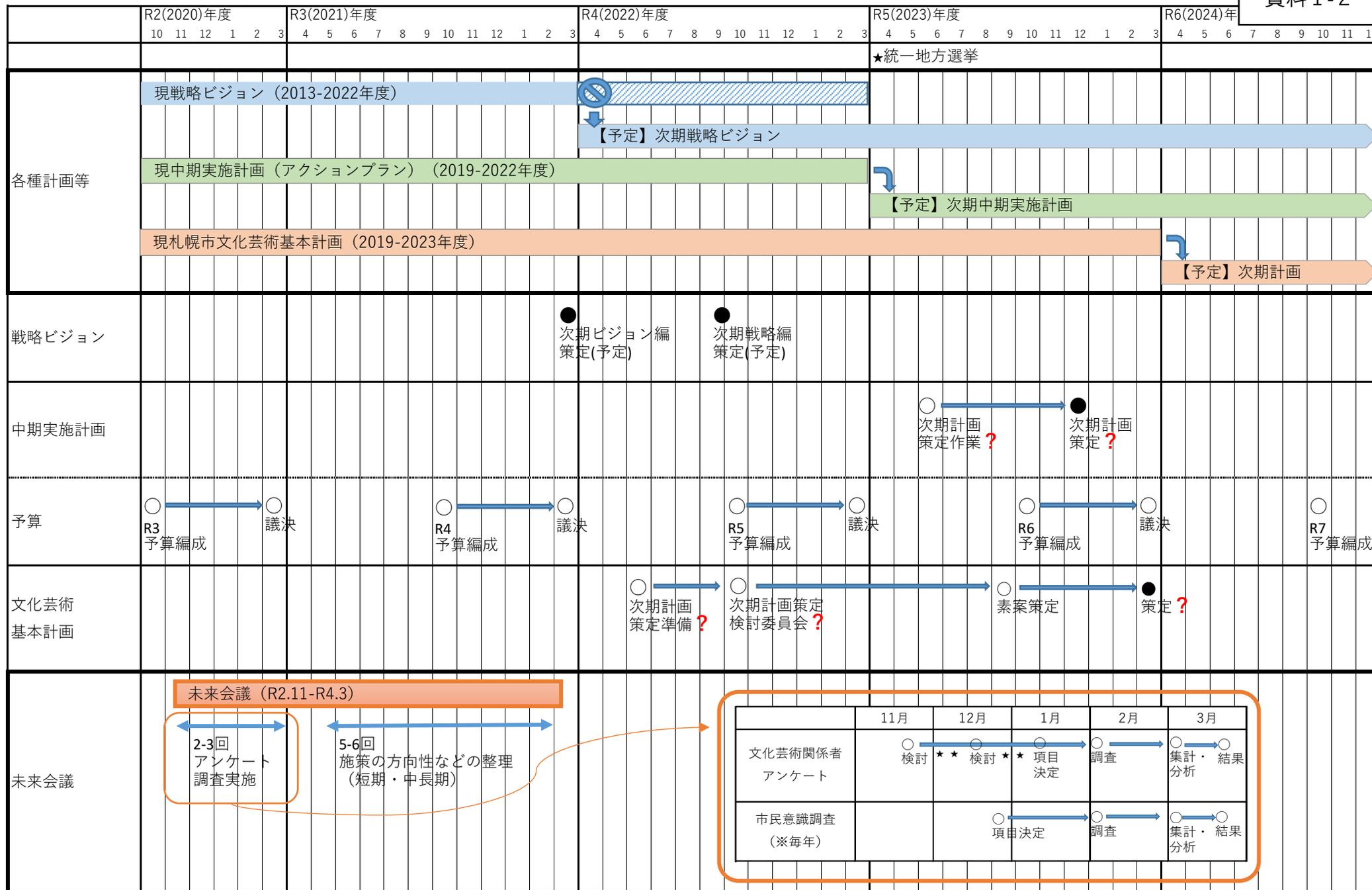
## 4 開催イメージ

年度	時期/回数	目指すこと	意見交換内容
R2	11-3月/2-3回 * 必要に応じてWG実施	文化芸術関係者向けに広くアンケート調査を実施し、市内文化芸術関係者の活動状況や、必要とする支援へのニーズ等について把握する	より効果的な調査とするためのアンケートの方向性や項目等について
R3	6-3月/5-6回	札幌市が推進すべき施策の方向性等を整理する(短期・中長期)	R2に実施したアンケート調査結果を踏まえ、事業や施策の具体展開イメージ、長期的に目指す理念等について

※ 正式会議とは別に、必要に応じてテーマを決めた勉強会等を開催することも想定。

関係スケジュール（想定）

資料 1-2

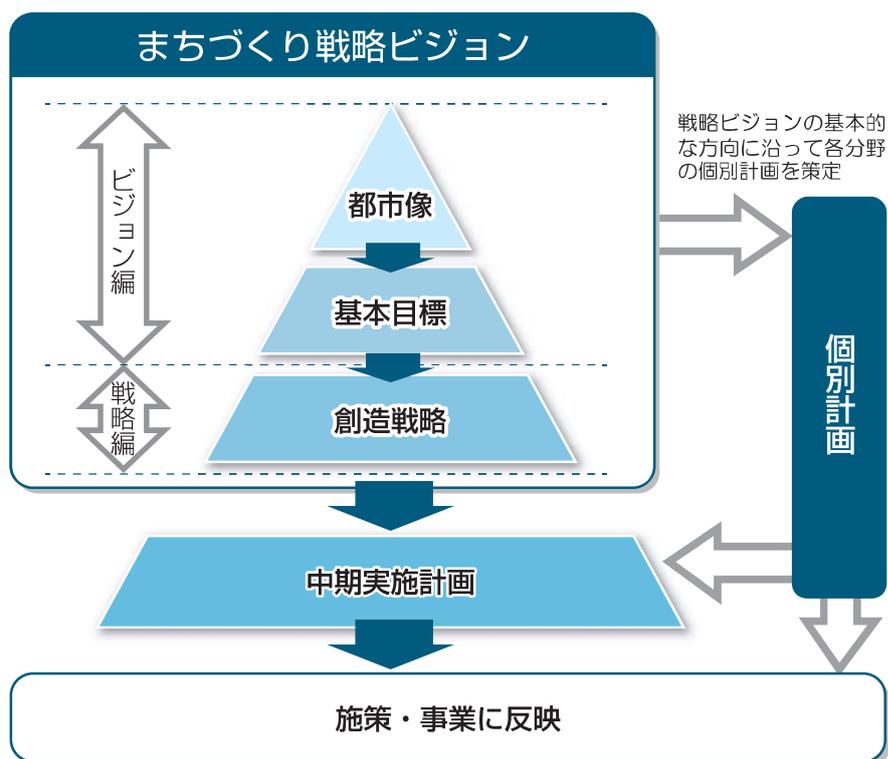


※札幌市まちづくり戦略ビジョン（ビジョン編）から抜粋

### 3 位置付け

戦略ビジョンは、これまでの札幌市基本構想と第4次札幌市長期総合計画に替わる新たなまちづくりの基本的な指針として、札幌市自治基本条例第17条の規定に基づき策定するものであり、札幌市のまちづくりの計画体系では、幅広い分野にわたる総合計画として最上位に位置付けられます。それぞれの分野には、法令に基づくものや札幌市が独自に策定するものなど、様々な個別計画がありますが、これらは、いずれも戦略ビジョンの基本的な方向に沿って策定し、推進していきます。

また、札幌市は、戦略ビジョンにおける基本的な考え方に基づく個々の施策・事業の展開に当たって、中期の実施計画<sup>11</sup>を策定し、効果的で着実な実行を図っていきます。

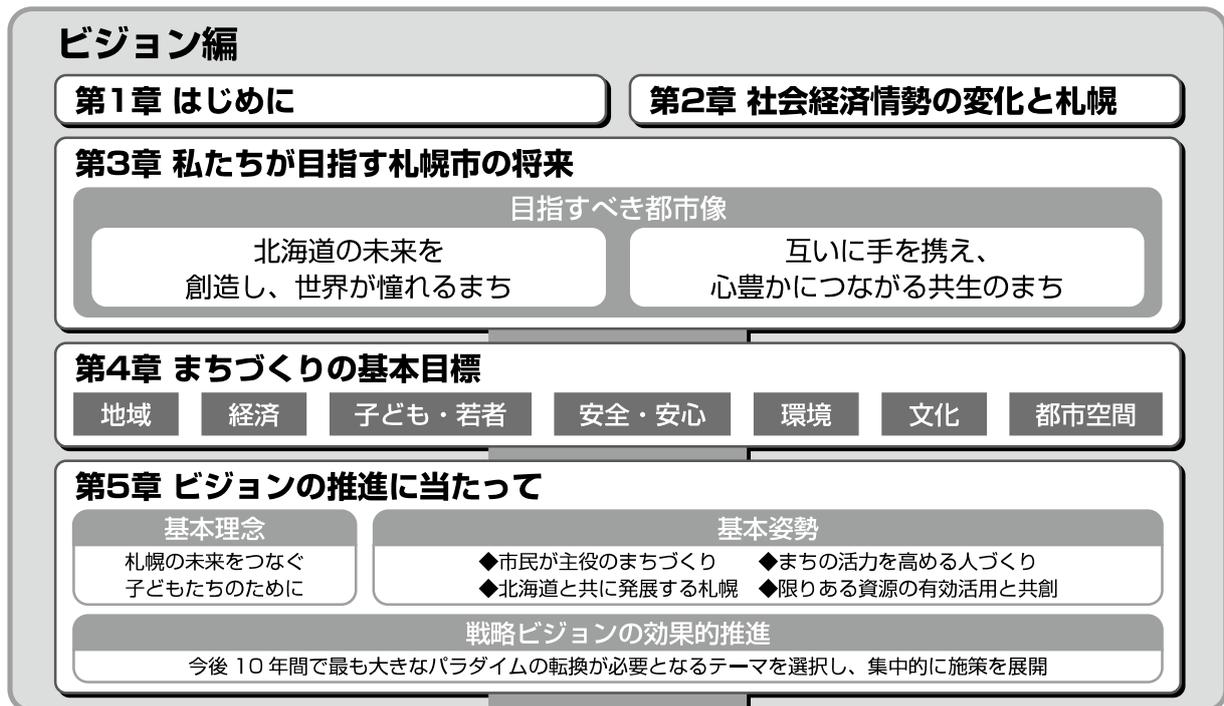


### 4 計画期間と目標年次

平成25年度（2013年度）から平成34年度（2022年度）までの10年間を計画期間とし、平成35年（2023年）を目標年次と設定します。

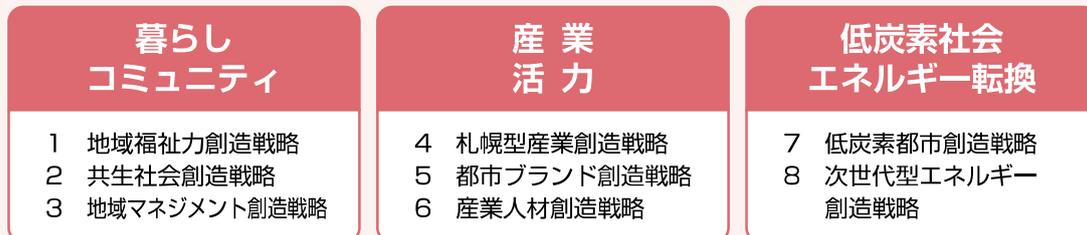
<sup>11</sup> 【実施計画】 戦略ビジョンに示すまちづくりの基本的な方向に沿った施策を計画的、効果的に推進していくため、短中期間で取り組む具体的な事業について定めるとともに、各年度の予算編成や事業執行の指針として策定する計画。

## まちづくり戦略ビジョンの全体像

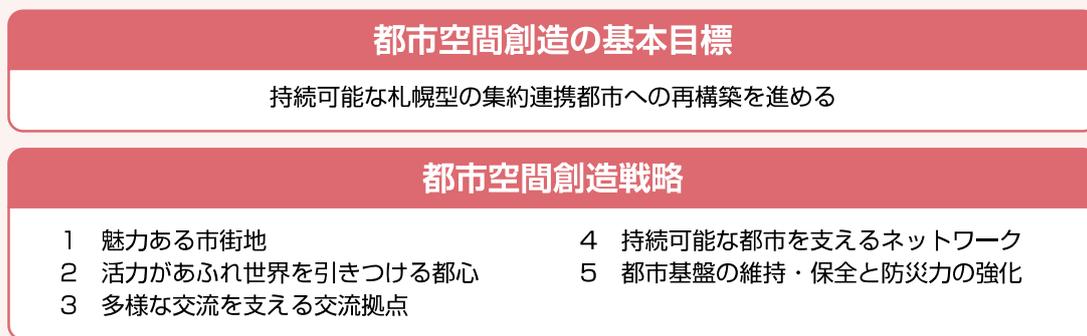


## 戦略編

### 第 1 章 創造戦略



### 第 2 章 戦略を支える都市空間



### 第 3 章 戦略の展開に当たって踏まえるべき行財政運営の視点

- ◆市民自治の更なる深化
- ◆変化に対応できる組織
- ◆持続可能な財政運営
- ◆サービス水準や受益と負担の在り方
- ◆市有財産の保全と活用
- ◆市民・企業などとの連携の強化
- ◆北海道と道内市町村との連携体制の確立

## 第6節 文化 ～創造性を育む～

### 現状と課題

社会経済情勢が大きく変化する中で、札幌・北海道の資源を有効に活用し、まちの魅力を効果的に伝えることにより、北海道全体の地域振興や産業振興などに結び付け、市民生活を豊かなものとしていく取組が求められています。

札幌には、世界的に評価の高い文化芸術・スポーツに関する施設やイベントが多数あり、市民の創造性を育む基盤が整っています。

また、文化芸術・スポーツは、人々に感動を与え、その感動は、人々を刺激し、新たな行動を起こすきっかけをつくっています。そして、その行動を新たなコト・モノを生み出す創造的な活動へとつなげていくことが求められています。

### 現状と課題を踏まえた重要な視点

#### — 文化芸術・スポーツによる創造性の育み —

札幌には市民が身近に文化芸術やスポーツに親しめる環境が整っています。文化芸術やスポーツを通じて育まれる創造性を地域の活性化や産業の発展に結び付け、まちの活力を維持し、向上させていくことが重要です。

また、年間6mもの雪が降る特徴的な風土や歴史がつくり出してきた独自の文化やライフスタイルに代表される札幌の魅力を市民一人一人が再認識し、誇りを持って発信していく必要があります。

### 基本目標の設定

#### 基本目標

- 18 創造的な活動により活力あふれるまちにします
- 19 文化芸術やスポーツの魅力によりにぎわいが生まれるまちにします
- 20 市民一人一人が魅力を再認識し発信するまちにします

基本目標

18 創造的な活動により活力あふれるまちにします

将来のまちの姿

- ▶文化芸術やスポーツが、市民に感動や刺激を与え、市民の感性や創造性を育むことで、生活を豊かなものにしていきます。
- ▶子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、見るだけではなく、自ら文化芸術やスポーツを楽しむことで、充実した生活を送っています。
- ▶文化芸術やスポーツからつくり出された人と人との交流がまちづくりに発展し、まちの活性化へとつながっています。

実現に向けて私たちが取り組むこと



創造戦略 6

産業人材創造戦略 ～将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用～

はじめに

第1章

第1節

第2節

第3節

第2章

第1節

第2節

第3節

第3章

資料編

10年後の目指すべき姿

札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材が育ち、誰もが活躍できる環境が整っています。さらに、女性や高齢者を始めとした市民一人一人が力を発揮し、多様化する社会的課題の解決や持続可能な経済の成長が実現されています。

パラダイム  
シフト

実現するために変わります！

女性が活躍できる環境整備

- ◆女性の力を生かした起業や就職の支援
- ◆多様な保育サービスや放課後児童クラブの利便性向上



6-① 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

現状分析と施策の方向性～SWOT分析より～（137ページ参照）

札幌市内には、15の大学に約5万人の大学生が通学するなど、大学等の高等教育機関が集積しています。

こうした地域資源を活用するとともに、幼い頃から創造性や国際感覚を育む環境づくりを行うことにより、札幌・北海道の将来を担う人材を育てる必要があります。

子どもたちが文化芸術に親しむ環境や、様々な就業体験、留学体験などの教育プログラムを充実させることで、幼い頃から創造性や国際感覚を育むなど、子どもたちの経験を豊かにする環境をつくることにより、高等教育機関などにより、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材の育成につなげます。また、優れた人材が持つ知識や経験などを積極的に活用します。

||||||| 主な取組 |||||

子どもたちの経験を豊かにする環境をつくります。

創造性や国際感覚豊かな人材の育成

● 創造性を育む教育プログラムの充実

子どもたちの創造性を育むため、札幌の自然や歴史等を学び、文化芸術に親しむ機会や、食育、科学的リテラシー<sup>142</sup>、勤労観や職業観を育む学習機会など、様々な教育プログラムの充実を図ります。

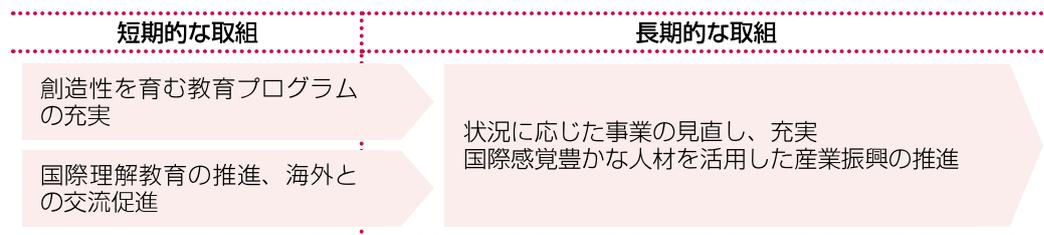
また、より効果的に学び、体験ができるよう、次世代型博物館<sup>143</sup>計画の策定を進めるなど、学習環境の整備・活用を図ります。



● 国際理解教育などの推進

国際感覚豊かな人材を育成するため、国際理解教育<sup>144</sup>の推進や若い頃からの海外経験を促すとともに、海外との交流促進などを図るほか、市立中高一貫教育校を設置します。

〔ロードマップ〕



札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材を育成します。

高等教育機関などの特性を生かした人材育成

● 高度専門職業人<sup>145</sup>の創出やセミナーなどの充実

中小企業の若手社員や離職後の女性などのキャリアアップの機会を提供するため、市内の大学などによる高度専門職業人の創出を推進するとともに、就業能力の開発に関するセミナー等の充実を図ります。



<sup>142</sup> 【リテラシー】 何かの分野や物事に習熟してそれを使いこなすことができる能力。

<sup>143</sup> 【次世代型博物館】 ここでは、自然の成り立ちや人と自然の関わりを、市民と共に探究し、札幌への理解を深め、創造性を育む、街や市民に開かれた次世代型の自然系総合博物館をいう。

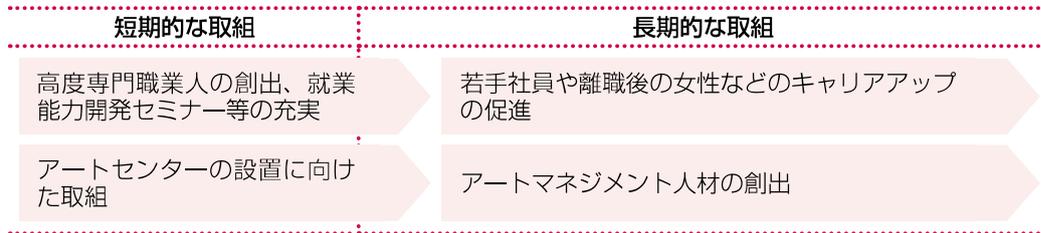
<sup>144</sup> 【国際理解教育】 日本の伝統と文化を大切に、世界の人の多様な生活や文化を理解し尊重する態度を養うとともに、世界平和に貢献し、国際社会で信頼と尊敬を得るにふさわしい資質を育成する教育。

<sup>145</sup> 【高度専門職業人】 ここでは、社会経済の各分野において指導的役割を果たす高度で専門的な職業能力を有する人材をいう。

## ●アートマネジメント<sup>146</sup> 人材の創出

アートマネジメントを活用した文化芸術活動の一層の推進を図るため、(仮称)アートセンターにおいて、必要な理論を学ぶ講座を実施するとともに、現場を体験する実習を行うなど、アートマネジメント人材の創出を進めます。

〔ロードマップ〕



## 優れた人材の知識や経験などを生かします。

### 留学生や高度人材の積極的な誘致・活躍

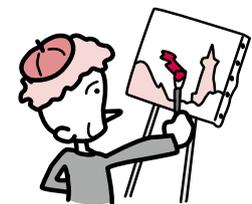
#### ●留学生の誘致促進

留学生の受入れを促進し、多文化共生による都市の魅力向上や、グローバルな視野を持つ市内学生の育成を図るため、大学などによる留学生誘致活動への支援を行うとともに、札幌市の海外ネットワークを活用し、留学生の誘致に向けたPRを実施します。



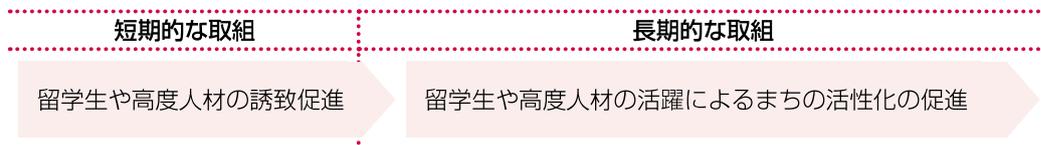
#### ●高度人材の誘致・活躍

市民の創造性を高め、まちの活性化を図るため、アーティスト・イン・レジデンス<sup>147</sup>の実施を通じて、国内外から芸術家を招き、市民が身近に芸術に触れ合う機会を提供します。



また、二地域居住<sup>148</sup>の推進等により、創造的活動に携わる人材を誘致するなど、道外の優れた人材が、札幌で活躍する機会を提供します。

〔ロードマップ〕



<sup>146</sup> 【アートマネジメント】ここでは、アート資産（施設、イベント、アーティスト・市民）それぞれの質を高め、相互の連携をコーディネートすることをいう。

<sup>147</sup> 【アーティスト・イン・レジデンス】アーティストの滞在型創造活動、またその活動を支援するシステム。

<sup>148</sup> 【二地域居住】一般に、都市住民等が、多様なライフスタイルを実現するための手段の一つとして、農山漁村等に定期的・反復的に滞在・居住することにより、都市の住居に加え複数の生活拠点を持つことをいう。ここでは首都圏と札幌市の2つの地域に生活拠点を持つことを指す。

1 計画体系



政策目標 **6** 産業分野の人材を育む街（創造戦略6：産業人材創造戦略）

施策1 将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用

施策の方向性

子どもたちが文化芸術に親しむ環境や、様々な就業体験、留学体験などの教育プログラムを充実させることで、幼い頃から創造性や国際感覚を育むなど、子どもたちの経験を豊かにする環境をつくるとともに、高等教育機関などにより、札幌・北海道の将来を担う創造性豊かな人材の育成につなげます。また、優れた人材が持つ知識や経験などを積極的に活用します。

現 状

札幌市内には、17の大学に約5万人の大学生が通学するなど、大学等の高等教育機関が集積しています。こうした地域資源を活用するとともに、幼い頃から創造性や国際感覚を育む環境づくりを行うことにより、札幌・北海道の将来を担う人材を育てる必要があります。

成果指標

指標選定の考え方	指 標	現状値	目標値
子どもが育つ環境の豊かさを示す指標	子どもが、自然、社会、文化などの体験をしやすい環境であると思う人の割合	52.7% (2018年度)	70% (2022年度)
国際化の要素の一つである海外からの留学生の受入状況を示す指標	海外からの留学生数	2,512人 (2018年度)	3,400人 (2022年度)

主 な 事 業

事業名・担当部 [計画事業費]	事 業 内 容
	事 業 目 標
平和都市宣言普及啓発事業 市) 地域振興部 [30百万円]	「札幌市平和都市宣言」を普及・啓発するイベントや平和への思いを次世代に伝える事業の実施などを通じて、市民が平和について考える機会を提供し、同宣言の理念や平和の大切さを次世代に継承します。
	○平和に関する事業への参加者数（累計） 2018：18,565人 ⇒ 2022：85,000人
消費者行政活性化事業 市) 市民生活部 [130百万円]	消費者の安全・安心を確保するため、消費者教育の推進や質の高い消費生活相談体制の維持を図ります。
	○消費者教育に係る研修等への参加者数（累計） 2018：7,981人 ⇒ 2022：34,236人
アイヌ伝統文化振興事業 市) 市民生活部 [371百万円]	アイヌ民族の伝統的な生活様式や文化などの紹介及びアイヌ文化を身近に感じる機会の創出により、アイヌ伝統文化の保存、継承、振興を図ります。
	○アイヌ文化交流センターの年間来館者数 2018：55,083人 ⇒ 2022：60,000人
アイヌ関係施設リフレッシュ事業 市) 市民生活部 [136百万円]	老朽化したアイヌ文化交流センターの屋内外展示物等について、計画的に更新・改修を進めます。
	○アイヌ文化交流センターの年間来館者数 2018：55,083人 ⇒ 2022：60,000人

事業名・担当部 [計画事業費]	事業内容
	事業目標
サッポロ・シティ・ジャズ 事業  市) 文化部 [36百万円]	プロライブや公募バンドによる無料ライブを実施することにより、市民のジャズ鑑賞機会の提供及び観光資源としての魅力向上を図るとともに、中高生が参画できる場を提供します。
	○サッポロ・シティ・ジャズ年間観客数 2018：240千人 ⇒ 2022：245千人
子どもの文化芸術体験 事業  市) 文化部 [171百万円]	市内の小学生を対象に様々な文化芸術の鑑賞・体験機会を提供するとともに、Kitara ファーストコンサート事業において、連携市町村 <sup>38</sup> の小学生を招待します。
	○全校参加型事業における市立小学校の平均参加率 2018：97% ⇒ 2022：98%
(仮称) 札幌博物館整備 推進事業  市) 文化部 [46百万円]	(仮称) 札幌博物館基本計画、展示・事業基本計画に基づき、(仮称) 札幌博物館の整備に向けた検討を進めます。
	○(仮称) 札幌博物館の整備に向けた調査・検討 2018：事例調査 ⇒ 2022：整備・管理手法の検討
博物館活動センター事業 の拡充  市) 文化部 [55百万円]	小金湯産クジラ化石の研究を進めるとともに、札幌の希少種などの調査・研究、寄贈標本を中心とした資料の整理・保存や収集、学校や団体との連携企画などの博物館活動センターにおける取組を拡充します。
	○博物館活動センター事業への年間参加者数 2018：11,839人 ⇒ 2022：15,000人
文化芸術振興補助事業  市) 文化部 [29百万円]	文化芸術振興基金 <sup>108</sup> への寄附金と運用収益を原資として、文化芸術事業への新たな補助制度を構築し、札幌市の文化団体等の育成と文化芸術の振興を図ります。
	○地元の文化団体等への年間補助件数 2018：— ⇒ 2022：8件
ものづくり人材育成支援 事業  経) 産業振興部 [64百万円]	ものづくりを体験できる場やイベントを通じて、若年層に対してものづくり企業の魅力や技術を発信することにより、若年層がものづくりに興味を持つきっかけを提供し、地元のものづくり企業への将来的な就職を促進します。
	○若年層へ向けた啓発イベント等の参加人数(累計) 2018：5,950人 ⇒ 2022：20,000人
みらいIT人材育成事業  経) 産業振興部 [40百万円]	地元IT企業や大学との連携体制を構築し、若年層の自発的なIT学習の促進やITの高度利用ができる人材育成の推進に取り組むとともに、若年層の地元IT企業への理解を促進するイベント等を実施します。
	○市内大学の工学部の学部生・大学院生の市内就職率 2018：28% ⇒ 2022：30%
札幌UIターン就職支援 事業  経) 雇用推進部 [223百万円]	東京23区内におけるさっぽろ圏内企業等の職業紹介を行う常設窓口の設置やイベント開催等を通じて、道外在住の学生や社会人のUIターン就職を支援するほか、さっぽろ圏内企業の採用支援も行います。
	○UIターン就職センター登録者の内定件数 2018：122件 ⇒ 2022：170件
移住による就業者・起業 創出事業  経) 雇用推進部 [284百万円]	東京圏への一極集中の是正及び地方の担い手不足対策のため、移住者の移転費用を補助し、UIターンによる就業の促進、起業の創出を図ります。
	○当該制度を利用した移住世帯数(累計) 2018：— ⇒ 2022：270世帯

<sup>108</sup> 文化芸術振興基金：市民や企業からの寄附を文化芸術の振興に資する取組に活用するため、昭和53年(1978年)に設けられた基金。